



広島県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」の  
後継樹が里帰り

—林木遺伝子銀行 110 番による樹木を増殖する取組—

ポイント

広島県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」(広島県庄原市)の後継樹の苗木が、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場から里帰りします。

概 要

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場(岡山県勝田郡勝央町)では、我が国の貴重な林木遺伝資源の保全を図るとともに、品種改良等に活用することを目的とした林木ジーンバンク事業を実施しています。

この事業の一環として、各地の天然記念物や巨樹・名木等の収集・保存と併せて、所有者等の要請により後継樹を増殖する取組「林木遺伝子銀行 110 番」を行っています。この取組を利用した庄原市教育委員会から増殖の要請を受け、広島県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」の後継樹としてつぎ木増殖し育てた苗木が里帰りします。

○里帰り日時及び場所 日 時：令和 4年 3月15日(火曜日) 11時～(雨天決行)  
場 所：広島県庄原市東城町三坂330 新坂自治振興センター

○里帰りする苗木本数 つぎ木増殖苗 6本 (立木：3本 倒木：3本)

お問い合わせ先

○国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター 関西育種場  
(平日 8:30~17:15)

事業責任者：遺伝資源管理課 課 長 坂本 庄生(さかもと しょうき)

担当者： 収集管理係長 山本 あゆみ(やまもと あゆみ)

広報担当者：連絡調整課 連絡調整係長 林 勝洋(はやし かつひろ)

Tel：0868-38-5138 Fax：0868-38-5139

○庄原市教育委員会

担 当 者：生涯学習課 文化振興係 主任 稲垣 寿彦(いながき としひこ)

Tel：0824-73-1189 Fax：0824-73-1254

本資料は、広島県政記者クラブに配付しています。

## 背景

全国には、学校や神社など身近な場所で地元の人々に親しまれ、ふるさとのシンボルとなっている天然記念物や巨樹・名木等が数多く存在します。こうした巨樹・名木等は、長い年月にわたって、風雪に耐え生育し続けているので、自然環境に対する適応性や抵抗性に優れている可能性が高く、林木遺伝資源として貴重なものです。

このため、関西育種場では、これら巨樹・名木等の収集・保存を進めるとともに、所有者等からの要請により衰弱しているこれら樹木の後継樹の苗木を増殖し、里帰りを行う取組「林木遺伝子銀行110番」を平成15年から実施しています。当育種場では令和2年度までに98件の巨樹・名木等の後継樹の里帰りを実施してきました。後継樹の苗木は、さし木やつぎ木で増殖したクローン苗木であり、親木と同じ遺伝子を持っていますので、二代目として成長することが期待されます。

## 内容

今回里帰りする後継樹の親木は、庄原市東城町新免にある広島県指定天然記念物「新免郷谷のエノキ」です。樹高約30mに達するエノキの大木で、根元には小さな祠があります。地上2m付近で二又になっており、立派な樹冠を形成し生育状況は旺盛でした。

しかし平成17年頃から樹勢に衰えが見られ、近年急激に衰えたため、庄原市教育委員会から関西育種場に後継樹の増殖依頼をしたいと連絡がありました。令和元年11月に突然二又の幹の片方が倒れたと同委員会より連絡があり、翌月に関西育種場の職員が現況確認を行いました。

従来1本の木と考えられていましたが、倒木は腐朽していたものの、立木には被害が及んでいなかったことから、2本の木が合わさっていたと考えられました。立木から増殖用の枝を採取するとともに、倒木の枝を確認するとまだ生きているものがあつたため採取しました。

令和2年春に立木・倒木の枝を各8本つぎ木したところ、立木は5本成功しましたが、倒木は1本だけ成功しました。そこで成功した倒木のつぎ木苗から枝を採り、翌年春にさらに12本つぎ木をしたところ9本成功しました。つぎ木苗の生育は順調で、そのうち野外に植栽しても育つと見込める苗6本（立木3本・倒木3本）を令和4年3月15日に里帰りさせることとなりました。

## 写真等

「新免郷谷のエノキ」（親木）の立木と倒木



里帰りする後継樹の苗木



立木の枝をつぎ木



倒木の枝をつぎ木